

## 令和2年度 事前評価点検表（内部評価）

### 1 事業概要

事業名	主要地方道 枚方富田林泉佐野線 歩道整備事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	寝屋川市打上高塚町	
事業目的	<p>本事業箇所は、バス路線であり、歩行者や自転車交通量も多いが、歩道がなく、道路幅員が特に狭隘な上、バスと自転車や歩行者が混在し、非常に危険な状況であることから、児童が当該箇所を避けて通学を行うなど、歩行者等の安全性が懸念される。</p> <p>そのため、寝屋川市が、警察や府道路管理者等と連携し策定した「寝屋川市通学路交通安全プログラム（明和小学校区域）」に基づき、府が歩道整備等事業を行い、歩行者等の安全を確保することを目的に実施する。</p> <p>なお、本事業箇所の整備後には、当該箇所を含む府道枚方富田林泉佐野線の一部を寝屋川市へ引継ぐこととしている。</p>	
事業内容	<p>歩道整備</p> <p>事業延長：0.26 km</p> <p>（現況）道路幅員：5.5m（2車線部）、〈狭隘部：4.3m（1車線部）〉</p> <p>車道：2車線部 [2.25m×2+路肩0.5m×2]</p> <p>〈狭隘部：1車線部 [3.3m+路肩0.5m×2]</p> <p>（計画）道路幅員：9.0m</p> <p>車道：2車線 [2.75m×2+路肩0.5m×2]、歩道：片側 [2.5m]</p>	
事業費	<p>全体事業費：約3.3億円〔国：1.8億円、府：1.5億円〕</p> <p>（内訳）調査費等 約0.2億円</p> <p>用地費等 約2.8億円</p> <p>工事費 約0.3億円</p>	
	<p>【事業費の積算根拠】</p> <p>・事業費は積み上げにより算出</p>	<p>【工事費の内訳】</p> <p>・歩道整備工 0.3億円</p>
事業費の変動要因	<p>・地権者への補償費の算定については、概算額で計上しており、今後の調査により変動する可能性がある。</p>	
維持管理費	<p>－（整備後、寝屋川市へ引き継ぐ）</p>	
関連事業	-	

### 2 事業の必要性等に関する視点

上位計画等における位置付け	<p>○大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3）</p> <p>○寝屋川市通学路交通安全プログラム（R2.3）</p>
優先度	<p>本事業箇所は、寝屋川市通学路交通安全プログラムに基づく交通安全対策であり、歩行者や自転車交通量も多いが、歩道がなく、道路幅員が特に狭隘な上、バスと自転車や歩行者が混在し、非常に危険な状況である。そのため、児童が当該箇所を避けて通学を行うなど、歩行者等の安全性が懸念されることから、歩道整備の緊急性が高い。</p> <p>また、本事業箇所の整備後には、当該箇所を含む府道枚方富田林泉佐野線の一部を寝屋川市へ引継ぐ予定としていることから優先度が高い。</p>
事業を巡る社会経済情勢等	<p>■社会経済情勢等</p> <p>&lt;通学路交通安全プログラム&gt;</p> <p>H24.4.23：京都府亀岡市で集団登校中の児童ら10名が死傷する事故発生。</p> <p>H25.12.6：「通学路交通安全プログラム」の策定に向けた取組みについて文部科学省、国土交通省、警察庁の3省庁合同通知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各市町村(教育部局、道路部局など)が主体となりプログラムを策定。</li> <li>関係機関(教育委員会、警察、各道路管理者)と連携した安全対策の実施。</li> </ul> <p>H27.1：寝屋川市通学路交通安全プログラム策定</p> <p>H29.11：本プログラムに当該箇所を位置付けた。</p> <p>■交通センサスデータ（平成27年）</p> <p>自動車交通量:3,741台/12h 自転車交通量:743台/12h 歩行者交通量:679人/12h</p> <p>■交通事故発生状況(平成27年～令和元年)</p> <p>交通事故件数：2件（うち死亡事故：0件）</p>
地元の協力体制等	<p>・寝屋川市において、当該事業に伴う用地取得などの協力。</p> <p>また、整備後、当該箇所を含む府道枚方富田林泉佐野線の一部を寝屋川市へ引継ぐ。（協力内容等について府と市とで協定を締結）</p> <p>・地元小学校（明和小学校）より、寝屋川市通学路交通安全プログラムに基づく整備要望有。</p>
事業の投資効果<費用便益分析>または<代替指標>	<p>交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。</p>
事業効果の定性的分析（安全・安心、活力、快適性等の有効性）	<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩道整備により、歩行者の安全を確保する。</li> <li>周辺に小学校があり、児童の安全確保に寄与する。</li> </ul> <p>【活力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが安心して社会参加できる生活空間の形成（バリアフリー化の推進・歩行者交通等の利便性向上）</li> </ul> <p>【快適性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩道整備による歩行者の通行利便性の向上</li> </ul> <p>【受益者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路利用者、地域住民</li> </ul>

### 3 事業の進捗の見込みの視点

事業段階ごとの進捗予定と効果	令和3年度～令和4年度：用地測量、物件調査、用地買収 令和4年度～令和6年度：歩道整備工事
完成予定年度	令和6年度

### 4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

代替手法との比較検討	・歩行者の安全を確保するためには、通行車両と歩行者等を物理的に分離できる歩道整備等を行うことが最善策であり代替案はない。
------------	--

### 5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	・周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に与える影響は少ない。
その他特記事項	—

### 6 評価結果

評価結果	○事業実施  <判断の理由> ・本事業箇所は、歩行者や自転車交通量も多いが、歩道がなく、道路幅員が特に狭隘な上、バスと自転車や歩行者が混在し、非常に危険な状況であるため、児童が当該箇所を避けて通学を行うなど、歩行者等の安全性が懸念されことから、歩道整備を行うことで、歩行者等の安全確保が図られる。 ・寝屋川市通学路交通安全プログラム（明和小学校区域）に基づく事業である。 ・整備後に当該箇所を含む府道枚方富田林泉佐野線の一部を寝屋川市へ引継ぐ。  以上の理由から、事業を実施する。
------	---